10.25)，『第15回　わが心の大阪メロディー』（総合・12.15)，『第66回NHK紅白歌合戦』（総合・12.31)，『NHKのど自慢チャンピオン大会2016』(総合･1.11)，『究極　冬なま！　夜こそ楽しもう』(総合・2.5）などで実施した。

Ⅳ．その他の補完放送

このほかの補完放送には，音声多重を使った「ステレオ放送」「２か国語放送」「解説放送」がある。「解説放送」は主に視覚障害者のためのサービスである。

「２か国語放送」と「解説放送」は総合，Eテレ，BS1，BSプレミアムで実施した。

３節　国際放送

国際放送は，世界の人々の日本に対する理解を深め，国際的な文化・経済交流の発展を促し，ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は，1995年４月から，北米，欧州向けに開始した。98年４月からは，デジタル化によって，アジア・太平洋地域にも日本語，英語で１日18時間の放送を開始し，10月からは，ほぼ全世界向けに拡大した。

99年４月からは，１日の放送時間を19時間とし，10月からは24時間放送を開始した。

01年８月には，衛星を変更して，それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となり，世界中をカバーすることになった。08年10月に，外国人向け放送のNHKワールドTVは英語化率100％を達成した。また，邦人向け放送のNHKワールド・プレミアムは国内放送のニュース・情報番組に加え，娯楽を供する番組など，より多彩な番組編成を実現した。

さらに，09年２月に番組改定を行い，英語ニュースを大幅に拡充し，国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時に編成するとともに，日本やアジアの情報を伝えるさまざまな番組についても，世界各地の好適視聴時間帯を強く意識した編成を実現した。09年４月より外国人向けテレビ国際放送の充実のために，新たに設立した日本国際放送（JIB）と連携して，日本の魅力を伝えた。インターネットでは，24時間動画配信を開始し，ニュースと番組を放送と同時に配信している。

16年３月末現在，２億9,000万世帯が受信可能である（一部，時間視聴可能世帯を含む)。

NHKの短波によるラジオ国際放送は，1935年に「海外放送」として開始した。戦後に一時中断，52年に「ラジオ日本」として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」(ジェネラル・サービス，一般向け放送）と，地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて，07年度前半期までは22言語で，１日65時間放送していたが，海外発信が欧米を中心に短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い，07年度後半期より，短波放送の送信地域と送信時間を見直した。「全世界向け放送」を廃止して，地域に応じた効率的な情報発信を進め，ドイツ語，イタリア語など４言語

を廃止し，18言語に縮小した。

一方，短波放送以外の新たな放送サービスとして，外国の放送事業者などが所有する送信施設を借用し，中波・FM波による放送サービスを拡充している。また，06年度後期より，衛星を使用したラジオ国際放送を行っている。

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットにより国際放送のニュース等の提供も積極的に行っている。

放送番組の編成

国際放送番組の編成は，年度ごとに「編集の基本計画」で編成方針，重点事項など基本事項を定める。この基本計画に基づき「放送番組編成計画」を策定し，新番組の概要，編成時間などの具体的な計画事項や，放送番組時刻表を定めている。

国際放送番組審議会は，「基本計画」の諮問に対して答申するなど，放送番組の適正化を図るため必要な事項を審議し，番組の編成や制作に役立てることを目的としている。

Ⅰ．国際放送の放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書，番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告，各種の調査などを参考にしつつ，15年度の番組提案を基に15年度の番組編成を検討し，「平成27年度国際放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は14年12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し，了承するとの答申を受け，15年１月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げる。年表示は西暦にし，記号などは本書の方式に合わせた。

１．編集の基本方針

2020年夏の東京オリンピック・パラリンピック開催を５年後に控え，海外発信のさらなる強化が求められています。国際放送「NHKワールド」は，NHKの総力を結集し，テレビ，ラジオ，インターネットを通じて，政治，経済，産業，文化，教育など幅広い分野について，迅速かつ客観的にニュースや番組を発信します。

「NHKワールド」は，海外発信強化の取り組みを通じて，日本に対する理解を促進するとともに，世界で信頼される国際放送を目指します。

NHK３か年計画の初年度にあたる15年度，外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」は，世界の視聴者に見てもらえる魅力的なチャンネルへと大きく変わります。

日本とアジアを中心にした取材制作体制を強化し，正確で客観的なニュースをさらに深く伝えるとともに，世界の識者たちによる討論を通じて，日本と世界が直面する課題の解決に向けて提言します。また，多彩な番組を，北米，アジア，欧州それぞれの視聴傾向にあわせて効果的に編成し，広く日本の魅力や実情を紹介します。

在外邦人向け日本語チャンネル「NHKワールド・プレミアム」は，海外で暮らす日本人や旅行者に，最新のニュースや情報番組を届けます。地震，津波などの自然災害や，事件・事故などの緊急事態発生時には，迅速かつ的確な情報を提供します。

ラジオ国際放送「NHKワールド・ラジオ日本」は，放送開始80年を迎えます。在外邦人のライフラインとして安心・安全を支える情報を届けるとともに，外国人向けに，日本の最新情報や話題を各地域のニーズにあわせて提供し，さらなる内容の充実を図ります。

インターネットサービス「NHKワールド・オンライン」では，ホームページを全面的に刷新して利便性の向上を図るとともに，番組の「見逃しサービス」を中心とするビデオオンデマンド配信（VOD）を開始します。テレビ，ラジオと並ぶ情報の発信手段として，見たい時にいつでもアクセスできるインターネットの強みを存分に活用します。

２．編集の重点事項と各波の編集方針

（１）テレビジョン国際放送

○NHKワールドTV（英語・外国人向け放送）

・大型ニュース番組の新設

日本時間の平日夜間に45分間のニュース番組を新設し，日本とアジアでいま何が起きているのか，深く分かりやすく伝えます。現場からの中継やリポートを軸に１日の動きをせきとめ，専門家や取材記者の解説を交えてニュースの核心に迫ります。また，さまざまな分野で活躍するキーパーソンへのインタビューや多彩な特集企画では，日本の視点から，アジアや世界の「いま」を見つめます。

・大型討論番組の新設

世界のオピニオンリーダーたちによる国際討論番組を新設し，日本と世界が直面する課題の解決に向けて提言します。グローバルなメディアとしての存在感を示し，NHKワールドTVの認知度の

向上を図ります。

・ターゲットを明確にした番組編成

平日は，北米，アジア，欧州の好適視聴時間帯に，それぞれの地域の視聴傾向にあわせて，日本の産業経済の動向や世界に貢献する最先端の科学技術，観光，食，文化などの情報番組を効果的に編成します。週末は，アニメやエンターテインメントなど，多彩で豊かな番組を編成し，世界に通用するコンテンツの開発を目指します。

〔放送時間〕

世界全域…１日23時間以上が基本

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

○NHKワールド・プレミアム（日本語・在外邦人向け放送）

・最新のニュース・情報番組

国内で放送するニュース・情報番組を拡充するほか，海外の動きを伝えるニュース番組や東日本大震災からの復興への取り組みなどを伝える番組，日本列島各地の表情を伝える番組など，内外の最新情報を届けます。

・「安全」と「安心」を支える情報

海外で暮らす日本人や旅行者の重要なライフラインとして，内外で起きた大規模な地震，津波などの自然災害や，事件・事故などの緊急事態発生時には速やかにニュースを特設するなど，迅速かつ的確な情報の提供に努めます。

〔放送時間〕

世界全域に向けた同一の番組編成…１日およそ５時間

北米・欧州地域に向けた，現地の生活時間にあわせた番組編成…各１日およそ５時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組80％以上，インフォメーション番組５％以上，娯楽番組を若干編成します。

（２）ラジオ国際放送

○NHKワールド・ラジオ日本

〔多言語・外国人向けサービス〕

・地域の特性に応じた多様な放送サービスの推進

日本の最新情報や話題を17の言語を通じて，現地の言葉で分かりやすく伝えます。地域の特性や受信環境に応じて，中波・FM波や衛星ラジオによる再送信，インターネットなどを活用し，リスナーの拡大を目指します。

・ニュース・番組の充実

災害や有事などの緊急時には機動的な編成に努め，最新のニュースを迅速かつ的確に伝えます。番組では，日本の魅力や文化情報を伝える企画を通じて，内容の充実を図ります。

・「国際放送開始80年」の取り組み

国際放送開始から80年となる６月を中心に，「NHKワールド・ラジオ日本」の存在感を高める特集企画に取り組みます。日本美術の名品の数々を，作者の思いや時代背景とともに紹介する新企画では，番組ホームページで作品の写真や解説を公開し，インターネットとも連携します。

〔放送時間〕

17言語・合計…１日あたり34時間40分

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

〔日本語・在外邦人向けサービス〕

・最新のニュース・多彩な番組の提供

国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなどの番組を国内と同時に放送し，日本の多彩な情報を伝えます。

〔放送時間〕

日本語…１日あたり24時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上，娯楽番組を若干編成します。

（３）インターネット

○NHKワールド・オンライン

・ホームページ全面刷新とオンデマンドサービス開始

インターネットの発信力をより強化するために，「NHKワールド」ホームページを全面的に刷新します。ホームページ上に，番組の「見逃しサービス」を中心とするビデオオンデマンド配信（VOD）のページを設け，世界のテレビ放送で標準になりつつあるサービスを開始して視聴者の要望に応えます。また，コンテンツの配置をより分かりやすく整理し，スマートフォン，タブレット端末からの閲覧やSNSへの情報発信にも適したデザイン・機能を導入するなど，ウェブサイトの利便性向上によってアクセス数増加につなげます。

・ワールドTV視聴アプリの機能拡充

スマートフォン向け「NHKワールドTV」視聴アプリの機能を拡充します。放送のライブ配信に加えて，ニュース記事やオンデマンド動画の閲覧も可能にするなど，手軽なアプリで多彩な機能が利用できるように開発を進めます。

・国際放送開始80年 特設ウェブサイト制作

「NHKワールド・ラジオ日本」が放送開始80年を迎え，さまざまな関連番組が放送されるのにあわせて，番組紹介や投稿募集を行う特設ウェブサイトを制作し，リスナーとの結びつきを深める場として活用します。

Ⅱ．国際放送番組審議会

15年度は11回開催された。会長の諮問に応じて，「平成28年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について審議し答申したほか，定時番組，特集番組などについても審議し放送番組の適正化を図った。

15年度の主な審議内容は次のとおり。

４月　NHKワールドTV『NEWSROOM TOKYO』について
５月　NHKワールドTV『GLOBAL AGENDA』について
６月　NHKワールドTV『Her Story』について
７月　NHKワールド・ラジオ日本の今後について
９月　NHKワールドTV『Face To Face』について
10月　NHKワールドTV『NEWSLINE』，『NEWSROOM TOKYO』について
11月　「平成28年度国際放送番組編集の基本計画（案）」，NHKワールドTV『Medical Frontiers』について
12月　「平成28年度国際放送番組編集の基本計画（案）」（諮問・答申），NHKワールドTV『Asia Insight』について
１月　NHKワールドTV『FLOOD Part 1』について
２月　NHKワールドTV『Inside Lens』について
３月　NHKワールドTV『Japanology Plus』について

番　組　制　作

Ⅰ．テレビジョン国際放送

（１）外国人向け放送

外国人向け放送において，国際放送独自制作の番組として，日本とアジアの１日を伝えるワイドニュース『NEWSROOM TOKYO』，世界のオピニオンリーダーたちによる国際討論番組『GLOBAL AGENDA』，日本車を専門に取り上げた『SAMURAI WHEELS』，鉄道情報の『Japan Railway Journal』，先端医療情報『Medical Frontiers』などのほか，ものづくり技術を競う『Supreme Skills!』，“食”の番組『Delicious Japan!』，年度後半から地域放送局制作の番組を紹介する『Hometown Stories』を新設した。

また，特集番組として，外国人向け放送において，戦後70年関連番組として広島・長崎の平和式典の生中継や『NHK Documentary』などを放送したほか，金沢や東北・北海道など日本各地の魅力を紹介する集中編成を行った。外国人ディレクターが独自の視点で日本やアジアの姿を描く『Inside Lens』，変貌し続けるアジアのいまを伝える『The Great Asian Highway 2015』なども放送した。

（２）邦人向け放送

１日およそ５時間『NHKニュース　おはよう日本』『NHKニュース７』『クローズアップ現代』『ニュースウオッチ９』『国際報道2015』などの報道番組に加え，『NHKのど自慢』『バラエティー生活笑百科』などの娯楽番組を，国内と同時に放送した。

東日本大震災からの復興，栃木・茨城・宮城大雨災害，TPP交渉や安保法制審議，パリ同時テロ，北朝鮮の水爆実験・ミサイル発射など，内外の重要ニュース等を，在外邦人に迅速に情報を提供した。

Ⅱ．ラジオ国際放送

15年度の外国人向け放送の放送時間は，17言語合わせて，１日当たり34時間40分。邦人向け日本語放送の放送時間は，１日当たり24時間。外国人向け放送と邦人向け放送を合わせると，18言語で，１日延べ58時間40分の放送を実施した。

（１）外国人向け放送

15年度も９分と14分のニュース枠を継続し，東日本大震災からの復興，栃木・茨城・宮城大雨災害，TPP交渉や安保法制審議，パリ同時テロ，北朝鮮の水爆実験・ミサイル発射など内外のニュースを，日本の視点を踏まえて伝えた。なお，『英語ニュース』『スペイン語ニュース』『中国語ニュース』『ハングルニュース』『ポルトガル語ニュース』はラジオ第２でも放送した。

『ラジオジャパンフォーカス』においては，通年で学ぶ「やさしい日本語」をリニューアルしたほか，国際放送開始80年企画として日本美術の名品を紹介する「物語で楽しむ日本の美」を放送した。英語放送では，リスナーとの交流を目指す『Friends around the world』をラジオ第２と同

時放送した。

（２）邦人向け放送

邦人向け放送においては，国際放送局が制作する日本語ニュースや海外安全情報に加え，国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなど，多彩な番組を国内と同時放送し，リアルタイムで内外の最新情報を伝えた。このほか『ちきゅうラジオ』『大相撲中継』『真打ち競演』『上方演芸会』『第66回NHK紅白歌合戦』等をラジオ第１と同時放送した。また，特集番組として『音楽遊覧飛行ワールドワイドⅢ』『Vamos, Amigos! トーク＆コンサート』などを放送した。

Ⅲ．インターネット展開

◇概況

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットサービス「NHKワールド・オンライン」では，国際放送のニュース・番組情報等を提供するとともに，NHKワールドTVおよびラジオ日本の放送中・放送後配信を実施するなど，積極的な情報発信を図っている。

15年度は，14年度より開発を継続してきた新ホームページへの全面刷新を，９月から11月にかけて段階的に実施した。16年２月には英語ニュースコンテンツの制作・管理システム更新を機に，英語ニュースページを大幅刷新した。

15年度のNHKワールド・オンラインのホームページへの週間平均訪問者数は31万人，訪問者当たりの週間平均滞在時間は13分４秒であった。

１．テレビ関連サービス

（１）ホームページでのサービス

放送法第20条第２項第２号に基づく受信料財源業務として，ホームページでNHKワールドTVの英語ニュースや番組情報の掲載，放送中・放送後の番組配信を実施した。

15年度は新番組『NEWSROOM TOKYO』『GLOBAL AGENDA』『Delicious Japan!』のほか，継続番組『Journeys in Japan』『TOKYO FASHION EXPRESS』の独自ホームページを新設するとともに，すべての定時番組・特集番組の内容をホームページで紹介した。戦後70年，東日本大震災５年や金沢，東北，北海道をテーマとした集中編成を紹介するホームページも特設した。６月には，15年度当初より先行提供していた『NEWSROOM TOKYO』に12番組を加えた計13番組が，主に放送後２週間，ホームページで視聴できるビデオオンデマンド（VOD）サービスを開始した。

ホームページ全面刷新の一環で，10月には日本文化に関連するテレビ・ラジオ番組の放送予定などを横断的に紹介するポータルページ「Life & Culture」を新設し，日本文化に関心のあるホームページ訪問者の利便性向上を図った。

（２）モバイルアプリでのサービス

10年２月より，スマートフォンやタブレット端末向けに，NHKワールドTVの放送同時配信を視聴できるアプリを提供している。15年10月より，テレビに接続してインターネット動画を視聴する機器向けのアプリ提供も開始した。

２．ラジオ関連サービス

（１）ホームページでのサービス

放送法第20条第２項第２号に基づく受信料財源業務として，ホームページでラジオ日本のニュースや番組情報の掲載，放送中・放送後の番組配信を実施した。９月にホームページを全面刷新し，『ラジオジャパンフォーカス』の番組情報を拡充した。サービスの概要は次のとおりである。

○ニュース音声（18言語）
・放送中配信，放送後配信
・ポッドキャスティング（日本語を除く）
○テキストニュース（13言語）
・アラビア語，ベンガル語，中国語，フランス語，インドネシア語，ハングル，ペルシャ語，ポルトガル語，ロシア語，スペイン語，タイ語，ウルドゥー語，ベトナム語
・16年２月よりヒンディー語，３月よりビルマ語のテキストニュース配信を試行的に開始した。
・災害等緊急時は随時更新
○ニュース動画（中国語）
・１日１回（月～金）更新
○企画動画
・中国語　週２回（火・金）更新
・ポルトガル語　週１回（金）更新
○番組音声（18言語）
・放送中配信，放送後配信
・公開期間は放送後１週間（９月より１か月間）
・日本語は『海外安全情報』（放送後），『ちきゅうラジオ』（放送中）のみ
○番組特設ページ（17言語）
・「やさしい日本語」
・「Let's Cook Japanese」（料理番組）

・「Welcome to Amazing Japan!」（旅番組）
・「物語で楽しむ日本の美」
・『国際放送開始80年』（日本語含む18言語）
・『We Love Japanese Songs!』（６言語）
・『ラジオパーソナリティーコンテスト』(中国語)

（２）モバイルアプリでのサービス

12年度より，スマートフォンやタブレット端末向けに，日本語を除く17言語のニュース･番組を放送中･放送後に聴取できるアプリを提供している。

（３）その他のサービス

NHK読み上げ版携帯サイトに英語，中国語，ハングル，ポルトガル語，スペイン語でニュースを配信している。

広報・反響

Ⅰ．広　報

◇概況

NHKワールドTVについては，国内外に向けたさまざまなプロモーションも展開した。ラジオ日本では，海外でのイベント開催に加え，ネット広告も実施した。

◇PR

１．NHKワールドTV関連の主な動き

４月　NHKワールドTVの新年度改定について，全国のブロック紙や地方紙合わせて14紙に，新番組などを紹介する記事が掲載された。

５月～　ニューヨークのタイムズスクエアの大型モニターでNHKワールドTVの動画広告を上映するなど，重点地域のアメリカで大型キャンペーンを実施。

７月　24時間配信をしている北米６都市の放送局で，NHKワールドTVの番組を特別編成してもらうなどのキャンペーンを実施。
番組情報誌「ステラ」に，NHKワールドTVを紹介する特集記事を掲載，特別編集版として抜き刷り冊子を発行，各種イベントなどで配付しPRに活用した。
ロンドン，パリ，ベトナム・ホーチミン，ブラジル・サンパウロと連続してイベント出展するなど，年間を通して精力的にPR活動を実施。

１月～２月　タイで旅行博への出展を核に，電車や駅，新聞や旅行雑誌，ウェブサイトでの広告など立体的な大型キャンペーンを実施。

３月　ニューヨークで最大規模の日本関連イベントに出展，「震災５年」関連番組を中心にPRした。
音楽番組『J-MELO』のテーマ曲の発表取材会を放送センターで実施，作曲を担当した小室哲哉氏も参加し，スポーツ紙やテレビ情報誌合わせて14媒体で掲載された。

２．ラジオ日本関連

（１）イベント関連

７月　国際放送開始80年，日露和親条約締結から160年の節目にあたり，７月11日にロシア・ウラジオストクでロシア語放送の公開収録を実施。「やさしい日本語」出演者のロシア人声優・ジェーニャさんをゲストに迎え，ロシアで人気の日本のアニメをテーマに，参加者にアフレコを体験してもらうなどして，ラジオ日本をPRした。
日本・ブラジル外交関係樹立120年を機にポルトガル語放送ホームページを通じて日本とブラジルの友好をテーマにしたエピソードと写真を募集。横浜放送局と連携して写真展を開催した。また，ブラジルへの日系移民に関係の深い，歌手の松田美緒さんを迎え，７月18日に公開収録も実施した。
「サンパウロ日本祭り」（７月24～26日）会場で，「どーもくん」の撮影会や，日本・ブラジル外交関係樹立120年記念写真展「みんなのエピソードでつむぐ　日本―ブラジル120年」などを実施。NHKワールドのPRを行った。

10月　戦後放送再開から60年を迎えたヒンディー語放送のPRビデオを作成。東京と大阪で行われたインド映画祭で，全映画の前に上映した。また，10月24日にはインド人が多く住む東京都江戸川区西葛西で，60年記念番組の公開収録を行った。参加者には，スマートフォンでラジオ日本の音声が聴取できるアプリのダウンロード方法などを説明し，PRを行った。

11月　11月１日にNHK文化祭の一環として，NHK-FMの『音楽遊覧飛行』とラジオ日本が共同で制作した『音楽遊覧飛行ワールドワイドⅢ』の公開収録の中で，ラジオ日本の紹介も行い，パンフレットの配布のほか，聴取用アプリのダウンロード方法なども説明。参加者の関心を集めた。

11月14日，東京・千代田放送会館にて，第２回「中国語パーソナリティーコンテスト」を実施し，公開収録した。会場には170人の観覧者が集まり，NHKワールドの広報VTRの上映や，聴取用アプリの紹介などのPRも行った。
戦後放送再開から60年を迎えたウルドゥー語放送の公開収録を，11月15日，富山県射水市で行った。それと連動して，在富山のパキスタン人のメッセージを集めたパネル展「私にとっての日本」を富山放送局で開催。富山県や射水市から，イスラム教徒との異文化理解につながると高い評価を得た。

１月　日本・ブラジル外交関係樹立120年に合わせて，前橋放送局と協力して，１月24日，群馬県大泉町で，歌手・小野リサさんや群馬育ちの日系ブラジル人で結成されたガールズユニットをゲストに迎え，ブラジル音楽のコンサートの公開収録を実施した。

（２）インターネット

国際放送開始80年関連の番組やイベントなどを効果的に周知・PRするため，５月１日から全言語で「国際放送開始80年ポータルサイト」を公開した。

３．NHKワールド全般　紙媒体等の展開

（１）紙媒体

NHKワールドの役割やサービス内容を紹介する「ガイドブック（英語・日本語）」，NHKワールドTVの全番組を放送時刻表とともに紹介するパンフレット，NHKワールドTVを紹介するチラシ（英語・日本語），ラジオ日本の周波数表，ラジオ日本の番組内容などを紹介するチラシ（17言語）を発行，国内外の政府機関・民間企業・日本人会などに送付し，PRに努めた。なお，すべての印刷物データはウェブサイトにて公開し，ダウンロードできる。

（２）「第34回NHKワールドカレンダー」フォトコンテスト

14年度に引き続きNHKサービスセンターと共催した。開催告知のPRスポットが国内波で編成され，15年度には，3,758点の応募があり，28点を受賞作品に選定した。受賞作品はNHKサービスセンターが制作する壁掛けカレンダーと卓上カレンダーのほか，受信報告に答えるためのベリカードや絵はがき，NHKワールド・オンラインのダウンロードサービスに使用した。カレンダーは，各国大使館・領事館，海外の放送局，日系人協会，日本人学校などに配布し，NHKワールドのPRを行った。

（３）NHK出版語学テキストへの広告出稿

国内の英語学習者へのPRとして，NHK出版英語テキスト用広告を制作。15年12月，10誌に出稿（16年１月号，２月号に掲載），16年３月，９誌に出稿（４月号，５月号に掲載）。

◇モニター

15年12月現在，テレビ番組モニター31か国121人，ラジオ番組モニター29か国48人，ラジオ技術モニター42か国54人という体制である。

Ⅱ．反　響

◇反響の周知と活用

（１）投書数

NHKワールド・ラジオ日本への15年度の郵送・Eメール・SMS（ショートメッセージサービス）による投書数は４万175件で，14年度と比べて，4,330件の減少となった。これとは別に「中国語ラジオパーソナリティーコンテスト」に5,491件，「やさしい日本語スキットコンテスト」に4,086件の投書があった。

15年度のNHKワールドTVへの海外からのEメール等での投書数は，9,749件となり，14年度と比べて2,563件の増加となった。

（２）反響の活用

「NHKワールドTV宛　Eメールウイークリーリポート」「テレビ番組モニター反響メモ」を週１回，「NHKワールド・ラジオ日本投書概況」「ラジオ日本モニター報告」「NHKワールドTV海外番組モニター報告&反響」を月１回まとめ，国際放送局の各番組担当者にフィードバックして，放送の質のさらなる向上に役立てた。

技術・施設

Ⅰ．テレビの送受信

NHKワールドTVは，英語による「外国人向けテレビ国際放送」で，09年２月に専用スタジオを設け，24時間毎正時，ニュースを放送している。09年12月には，標準画質の放送に加え，ハイビジョンによる放送も開始した。放送はノンスクランブル（無料）で，インテルサット社の３つのCバンド衛星を使い，ほぼ全世界をカバーしている。

受信には直径2.5メートル程度のパラボラアンテナが必要なため，小型のアンテナで受信できる衛星（Kuバンド）や地域のCATV，IPTVなどを通じて，より簡便に視聴できるよう受信環境の整備を進めている。15年度末には，28機の衛星でおよそ150か国のエリアをカバーし，約２億9,000万世帯で視聴が可能となった。

NHKワールド・プレミアムは，NHKワールドTVと同じ３つのCバンド衛星で，海外のCATVや衛星放送局などの放送事業者にNHKの番組を有償で配信し，各事業者が提供する日本人向けのテレビチャンネルである。

テレビジャパンは，北米NCMA社（NHK Cosmomedia America，Inc．ニューヨーク），JSTVは欧州NCME社（NHK Cosmomedia Europe Ltd．ロンドン）が，衛星（Kuバンド）等を使って91年から実施している有料の邦人向けサービスである。NHKや民放の番組にスクランブルをかけて放送している。

NHKワールド・プレミアムとテレビジャパン，JSTVを使って，１日およそ５時間，ノンスクランブルの「邦人向けテレビ国際放送」を実施している。

Ⅱ．ラジオの送信

15年度も，NHKワールド・ラジオ日本は，放送対象地域のメディア状況に即した，一層効率的で効果的な送信体制への移行を進めた。短波については，15年度前期，日本の八俣送信所と12の海外中継局から送信していた体制を，15年度後期には八俣と11の海外中継局とした。また，中波・FM波による中継放送を９つの国と地域で行った。

○八俣送信所

送信機６台（300kW：５台，100kW：１台），アンテナ18式（カーテンアンテナ：15式，水平LPアンテナ：３式），25方向で送信。ラジオ国際放送を，１日44時間40分送信した。

○海外中継

（１）イギリス中継放送

92年７月１日，スケルトン送信所などの500kW送信機などを借用し放送開始。15年度は，前期，欧州向けに１日30分の送信を実施した。

（２）シンガポール中継放送

96年４月１日，クランジ送信所の250kW送信機などを借用し放送開始。15年度は，東南アジアおよび南西アジア向けに，１日４時間15分の送信を実施した。

（３）アセンション中継放送

95年４月１日，アセンション中継局（大西洋・英領アセンション島）の250kW送信機などを借用し放送開始。15年度は南米向けに，１日２時間の送信を実施した。

（４）ダバヤ中継放送

03年４月１日，ダバヤ送信所（アラブ首長国連邦）の500kW送信機などを借用し放送開始。15年度前期は，南西アジア向けに１日45分，後期は欧州および南西アジア向けに１時間15分の送信を実施した。

（５）フランス中継放送

08年３月30日，イスーダン送信所の500kW送信機を借用し放送開始。15年度は，中米，中東・北アフリカおよびアフリカ（中部，西部，南部）向けに１日10時間の送信を実施した。

（６）ドイツ中継放送

08年３月30日，ヴェルタハタル送信所などの500kW送信機などを借用し放送開始。15年度は，中東・北アフリカ向けに１日４時間の送信を実施した。

（７）ウズベキスタン中継放送

09年３月29日，タシケント送信所の100kW送信機を借用し放送開始。15年度は，中東・北アフリカ，南西アジア向けに，１日１時間30分の送信を実施した。

（８）リトアニア中継放送

10年３月28日，シトクナイ送信所の100kW送信機（短波）を，11年３月27日には500kW送信機など（中波）を借用し放送開始。15年度は，欧州向けに，短波は１日30分，中波は１日１時間の送信を実施した。

（９）マダガスカル中継放送

10年３月28日，マダガスカル送信所の250kW送信機を借用し放送開始。15年度は，アフリカ（東部，中部，西部）および南西アジア向けに１日３時間の送信を実施した。

（10）イタリア中継放送

16年３月27日，バチカン放送局の送信所の250kW送信機を借用し放送開始。15年度は，アフリカ（西部）向けに１日30分の送信を実施した。

（11）パラオ中継放送

12年３月25日，パラオ送信所の100kW送信機を借用し放送開始。15年度，東南アジア向けに１日２時間の送信を実施した。

（12）アメリカ中継放送

12年８月12日，サイプレスクリーク送信所の250kW送信機を借用し放送開始。14年３月30日，

オキチョービー送信所の100kW送信機を借用し放送開始。15年度は，中米向けに１日30分，南米向けに１日２時間の送信を実施した。

（13）南アフリカ中継放送

13年４月１日，メイヤートン送信所の250kW送信機を借用し放送開始。15年度，アフリカ（中部）向けに１日30分の送信を実施した。

（14）インドネシア中継放送

09年３月29日，インドネシアのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，バンドンなど計35都市で１日45分の送信を実施した。

（15）ヨルダン川西岸中継放送

09年４月26日，パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，ラマラなど計４都市で１日30分の送信を実施した。

（16）アフガニスタン中継放送

10年３月28日，アフガニスタンのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，カブール，ヘラートの２都市で１日30分の送信を実施した。

（17）バングラデシュ中継放送

10年10月31日，バングラデシュ国営FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，首都ダッカなど計７都市で１日45分の送信を実施した。

（18）タンザニア中継放送

12年３月25日，タンザニア放送協会（TBC）のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，ダルエスサラームなど計23都市で１日30分の送信を実施した。

（19）イラク中継放送

15年３月29日，イラクのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，バグダッドなど計５都市で１日30分の送信を実施した。

（20）ブラジル中継放送

13年４月１日，ブラジルの中波・FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。15年度は，サンパウロなど計３都市で１日30分の送信を実施した。

（21）モスクワ中継放送

09年３月29日，ロシア国営送信会社の10kW送信機（中波）を借用し放送開始。15年度は，モスクワ市および周辺地域向けに１日１時間の送信を実施した。

（22）タジキスタン中継放送

11年３月27日，国営タジキスタン送信会社の300kW送信機（中波）を借用し放送開始。15年度は，欧州，中東・北アフリカおよび南西アジア向けに１日１時間45分の送信を実施した。

４節　著作権・アーカイブス・考査

著作権

１．多様な番組展開への対応

放送とインターネット（通信）とを融合したサービスや４K･８Kコンテンツの制作，番組の海外展開を促進するための権利処理ルールの整備を進めている。

（１）インターネットを活用するサービスへの対応

15年４月に施行された改正放送法に基づくインターネットを活用した新たなサービスのために必要な権利処理が円滑に進むよう，権利者団体との交渉などに取り組み，権利処理ルールを定めることができた。

（２）４K･８Kコンテンツ制作への対応

16年夏に開始予定の４K･８K試験放送に向けて，４K･８Kコンテンツの制作を行うにあたり必要な権利処理が円滑に進むよう，権利者団体との交渉などに取り組んだ。

（３）総務省における連絡会等への対応

放送番組の円滑な海外展開のための権利処理の効率化を目指して総務省が設置した「放送コンテンツの権利処理に関する連絡会」の下に置かれた「実演家実務者連絡会」と「原盤権実務者連絡会」に構成員として参加し，実演家団体やレコード協会等と権利処理のさらなる迅速化や円滑化を目指して話し合いを行った。

（４）音楽著作物の利用のための取り組み

放送およびインターネットにおいて音楽著作物を利用するにあたり，15年度から著作権等管理事業者が３団体となり，各団体と個々に使用許諾契約締結に向けた協議を行うとともに，３団体が管理する楽曲使用の合理的な利用割合の算出方法について，文化庁・民放連・３団体とNHKが集まり協議を行った。

２．権利情報の充実のための取り組み

放送番組の多メディア展開や放送と通信が融合したサービスなど，番組の多様な利活用を進めるためには，権利処理を的確かつ円滑に行うことが不可欠であるとともに，番組の中で使用した著作物や実演などに関わるさまざまな権利情報を確実に記録しておく必要がある。この点を踏まえ，保存した各番組について，権利情報の記録状況を点